

妙高高原における日食観測

山本 威一郎

日本でも23年ぶりの大型日食とあって、マスコミも相当大きく取り上げた。特に北海道では80%を超えるとあって、はるばる、本州・九州からも相当のアマチュア達が遠征したが、最北端の稚内では、皮肉にも、天候にめぐまれなかったようだ。又、東京では、不安定な天候ながらも60%近く欠けた太陽を多くの人が観測した。又、ニュースによると、多摩動物園のチンパンジーが、夜が近づいたのと感じて、一ヶ所に群がったとも聞いている。

以下、私が観測した妙高高原における状況について話しましょう。

① 動物の動き

セミ（カナカナ）が食最大で鳴く割合が多くなった。他は正常。

② 周囲の状況

温度が下がった様にしたが、数字では不明。ただし、直射量は明らかに減った。夏の日ざしから冬の日ざしになった様。

風も食最大近くで少なくなった。

③ 影

木の葉の影が、三ヶ月状。又、手のひらの影に異常があらわれた。

手のひらの影はある方向では正常であったが、90度回転すると指と指の間にまるいコブ状の影があらわれた。あたかも、長さ1cm程度の指が4本ふえたようにみえた。

④ ビンホール

ビンホールは20%の食分位から明らかに分った。

60%の日食ですら、少し注意深く観測するといろいろな事に気付くことが判った。